

令和3年1月6日

関係団体 各位

北陸信越運輸局災害対策本部

1月7日から9日頃にかけての暴風雪と大雪に備えた対応について（協力依頼）

7日から8日にかけて低気圧が急速に発達しながら日本海から千島近海へ進み、9日頃にかけて日本付近は強い冬型の気圧配置になる見込みです。

これにより日本海側を中心に非常に強い風が吹き、猛ふぶきや大しけとなるおそれがあり、日本海側は平地まで、太平洋側は山地を中心に大雪となる見込みです。

今後、猛ふぶきや暴風・高波及び大雪による交通障害や施設への被害に警戒するとともに、路面の凍結、山地におけるなだれなどにも注意が必要です。

つきましては、最新の気象情報に留意するとともに、下記の通り、万全の対応をとっていただくとともに、ご協力方よろしく申し上げます。

記

1. 大雪や暴風雪による立ち往生に十分警戒すること。
2. 冬用タイヤの装着及び摩耗劣化状況の確認、チェーンの早期装着、広域迂回の実施、通行ルートの見直し、計画的な運休など、具体的な対策を実施すること。
3. トラック運送事業者においては、「台風等による異常気象時下における輸送の在り方について」（令和2年2月28日付け国自貨第136号）に基づき、必要な措置を講じること。

<抜粋>

【別表】異常気象時における措置の目安

気象状況	雨の強さ等	気象庁が示す車両への影響	輸送の目安*
暴風時	10～15m/s	道路の吹き流しの角度が水平になり、高速運転中では横風に流される感覚を受ける	輸送の安全を確保するための措置を講じる必要
	15～20m/s	高速運転中では、横風に流される感覚が大きくなる	
	20～30m/s	通常で速度で運転するのが困難になる	輸送を中止することも検討するべき
	30m/s以上	走行中のトラックが横転する	輸送することは適切ではない

4. 運行計画の変更は、HPへの掲載等あらゆる手段により早めの広報を図ること。
5. 地方公共団体等より、被災者の救出・救助活動への支援（車両、宿泊施設の確保等）に関する要請があった場合は、迅速に協力すること。
6. 上記1.～5.に対応するため、貴団体内における情報連絡体制（夜間であっても確実に連絡できる体制）を、北陸信越運輸局との間を含め確保すること。